

# 駐日ラテンアメリカ大使インタビュー

パラグアイ共和国

マリオ・マサユキ・トヨトシ駐日パラグアイ大使



## 「現場第一」で新たな扉を開きたい

—2026年は日本人パラグアイ移住90周年—

パラグアイ共和国のトヨトシ駐日大使は、ラテンアメリカ協会のインタビューに応じ、ペニャ政権の政策と訪日の成果、トランプ政権下の米国との関係、台湾と関係、移住90周年、大使としての取り組み等について見解を述べた。同大使は、パラグアイやカナダで自動車関連会社の役員を長年務めた後、2024年10月から駐日特命全権大使。日系二世で、父親のナオユキ・トヨトシ氏は2009年から2017年まで駐日大使を務めた。インタビューの一問一答は次の通り。

—大使は駐日大使として着任されてもうすぐ1年になりますが、日本についてどのような印象をお持ちですか。大使は日系人であり、父上も駐日大使を務められましたが、感慨深いものがありますか。

私の日本に対する印象は、単にその文化や伝統に魅了された観察者としてのものではなく、山口県にルーツを持つ日系パラグアイ人としてのものもあります。父はかつてこの国で大使を務めており、今は私がその歴史的な架け橋を引き継ぐ番です。

この最初の一年で最も記憶に残ったのは、神社仏閣や豊かな地方色、日本のもてなしだけではありません。大きな成果として、両国の関係を「価値を共有するパートナー」から「戦略的パートナー（同志国）」に引き上げたサンティアゴ・ペニャ大統領の賓客としての来日、パラグアイ人への日本の短期滞在査証免除、パラグアイ産牛肉の対日輸出に向けた技術的検証の開始、そして大勢の人々が来場した大阪・関西万博におけるパラグアイ・ナショナルデーの準備などがありました。

パラグアイ人として、そして日本人の子孫として、私は二重の責任を感じています。それは、両国のある信頼を体現すると同時に、日本とパラグアイが単に理解し合うだけでなく、不確実な世界において確実性をもたらすために互いを必要としていることを示すことです。

—2023年8月に発足したサンティアゴ・ペニャ大統領の政権は、経済や外交において一定の成果を挙げつつありますが、同政権の優先政策と成果について教えてください。

ペニャ政権の優先政策は、次の3つの明確な軸を中心に展開されています。

1. 日本を中心とするアジアとの関係の強化：これまでに日・パラグアイ投資協定について実質合意が成立し、パラグアイ人への短期滞在査証免除が決まりました。さらに高いトレーサビリティを

備えた牛肉の日本市場への輸出解禁に向けて取り組んでいます。

2. 実質的な統合のためのインフラ整備：両洋横断回廊（El Corredor Bioceánico）とアントファガスタ自由貿易地域により、パラグアイは大西洋・太平洋・アジアを結ぶ効率的な結節点として重要な地位を担うことになります。

3. 卓越したビジネス環境：ムーディーズの投資適格格付け、100%再生可能エネルギーで生み出される安価な電力、低い税負担、平均年齢 27 歳の若い労働力などにより、パラグアイは企業家に中南米地域において比類のない好条件を提供しています。



（写真）ペニヤ大統領出席によるパラグアイ消防隊への日本製車両の寄贈式

—ペニヤ政権は、地域統合を重視し、両洋横断回廊の整備を進めているようですが、その進捗状況を教えてください。

両洋横断回廊は、かなり進展した段階にあります。今後 12 か月以内に、物理的統合の第一の大きな段階を示す重要な橋梁が完成します。並行して、チリのアントファガスタ自由貿易地域の稼働を進めており、これによりアジア向けの物流コストと時間を削減することが可能になります。

これは、日本がメルコスールおよび南米へのより直接的で競争力のあるアクセスを確保できることを意味します。ブラジル、アルゼンチン、チリとともに物理的統合を進める一方で、日本企業がパラグアイでバリューチェーンを構築することを可能にする協定の成立にも取り組んでおり、これは FOIP（自由で開かれたインド太平洋）のビジョンとも整合するものです。

—トランプ政権の関税・貿易政策によりラテンアメリカにも波紋が広がっていますが、貴国への影響はいかがですか。

パラグアイは米国と建設的な関係を維持しています。TIFA（貿易投資枠組み協定）の枠組みの中で、パラグアイ産の砂糖と牛肉の輸出枠の拡大が検討されています。しかし、我々の戦略はリスクの分

散にあります。すなわち、米国との協力を深化させ、日本との戦略的パートナーシップを強化し、アジアへの関与を拡大することです。

パラグアイは独自の付加価値を提供します。それは、安定性、信頼できる生産、そして市場を歪める補助金なしのクリーンエネルギーです。これによって我々は要求水準の高い市場において競争力のあるパートナーとなっています。

**—今年5月、ペニャ大統領が来日され、首脳会談で二国間関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げすることが合意されました。今後の両国関係についてどのようなことを期待されますか。**

ペニャ大統領の訪日を通じ、次の3つの主要な成果があり、今後これに基づき関係が促進されることを期待しています。すなわち、①今後数か月以内に日・パラグアイ投資協定を締結すること、②パラグアイ産牛肉について、最高水準の衛生基準に基づき日本市場の開放を実現すること、③FOIPと両洋横断回廊を結びつけ、我々の経済を競争力ある構造と強靭なサプライチェーンの中に統合することです。

我々は「同志国」です。すなわち、民主主義と自由という価値を共有し、その原則を具体的な成果へと結実させる国々なのです。

**—ペニャ大統領は、滞日中にパラグアイと台湾の共催による対日友好レセプションに出席されたが、その背景にはどのようなお考えがあるのでしょうか。**

現在、南米で台湾と外交関係を有している国はパラグアイだけです。私たちの外交は「価値を先に、利害を後に」という原則に基づいています。パラグアイと台湾は68年にわたる友情を育んできましたし、日本も台湾と特別な関係を維持しています。三か国の指導者が一堂に会することは、一貫性を示すメッセージでした。すなわち、私たちは安全なサプライチェーンと信頼に基づくパートナーシップを支持しているのです。

世界的に緊張が高まる中で、パラグアイは民主主義と自由に根ざした同盟関係に賭けています。これは一時的な立場ではなく、歴史的な信念なのです。



(写真) ペニャ大統領訪日の際のパラグアイ・日本・台湾の友好を祝うレセプション

**—明年はパラグアイへの日本人移住 90 周年ですが、その意義をどのようにお考えですか。**

私は駐パラグアイ日本大使とともに、90 周年組織委員会の名誉会長に任命されていますが、私たちはこの記念行事を二国間の節目としたいと考えています。

1936 年、チャコ戦争の後、他国が門戸を閉ざしていた中で、パラグアイは日本人移民に門戸を開きました。その連帯の精神は、労働と献身によって報われました。現在、人口 700 万人の国にわずか 1 万人の日系人が暮らしていますが、パラグアイの大豆生産の 3 分の 1 を担い、農業、政治、教育、文化の分野で決定的な貢献を果たしてきました。

90 周年は、パラグアイと日本の双方にとって歴史的な記念となり、感謝と共創の関係を祝う機会となるでしょう。

**—最近、大使が特に関心を持たれ、また力を入れて取り組んでおられることは何でしょうか。**

私のアプローチは「現場第一」です。各都道府県に足を運び、地方自治体や企業と接触し、具体的な機会を見いだすことに重点を置いています。貿易・投資・技術の新たな扉を開くために、鍵となる分野で戦略的ネットワークの構築に努めています。

私の任務は、戦略的ビジョンを現場に落とし込むことです。つまり、協定を締結し、市場を開放し、投資を実現することです。パラグアイは、日本にとってメルコスールにおける FOIP の拠点となることを目指しています。



(写真) トヨトシ大使の北海道訪問の際の鈴木知事との会談

**—読者に対してメッセージがあれば、お願いします。**

明年 2026 年には外交関係樹立 106 周年と日本人移住 90 周年を迎えます。皆様には、ぜひこれらの記念行事にご参加いただきたいと思います。

パラグアイは、開かれた、安定した、そしてダイナミックな国です。南米およびメルコスールへの信頼できる架け橋、100%再生可能で競争力のあるエネルギー、若くて優秀な人材、魅力的で安全な投資環境などがその

特徴です。また、パラグアイは、価値・安定・成果に基づく「実現可能な約束」の国でもあります。

(注) 本インタビューのスペイン語全文は、ラテンアメリカ協会ホームページ英語サイトに掲載しています。

[https://latin-america.jp/en/archives/category/jalac\\_interview](https://latin-america.jp/en/archives/category/jalac_interview)